科目名称	地域・在宅看護論Ⅱ（訪問看護技術）	学年学期	単位数	時間数
		第２学年　後期	2	45
担当教員	宇都宮　千都	授業に関わる実務経験	■ 有 （ 保健師 ） □ 無	

【1】 授業概要

対象の健康課題や生活上の問題に対する的確な判断能力を養うとともに、療養者の生活に合わせた基本的技術を身につける。また在宅では家族が主となり介護を行うので、家族に対する相談的・教育的対応技術を学ぶ。

【2】 学習目標

1. 対象の生活に沿った日常生活援助の方法を理解できる。
2. 医療依存度の高い療養者への看護について理解できる。
3. 家族を含めた援助の重要性が理解できる。

【3】 第１看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

■ 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
■ 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
■ 3. 地域の特性を看護に生かす力
■ 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
■ 5. 主体的に学び続ける力

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	在宅看護論Ⅱ（訪問看護技術）の考え方、地域・在宅看護の看護過程	講義
2	他科目の既習内容の確認	演習
3	面接技術	講義
＜在宅での基本技術：第 3～9 回＞脳血管障害を患い、介護者も高齢である A 氏の事例を通して学ぶ。		
4	食・栄養の援助【外部講師】	講義
5	服薬管理	講義
6	清潔の援助、排泄の援助	講義
7	移動の援助	講義
8	物品の工夫（ケリーパッドの作成）	演習
9 10	演習：移動、洗髪、入浴介助	演習
＜医療依存度の高い療養者への看護技術：第 11～14 回＞		
10	在宅における感染予防対策	講義
11	在宅中心静脈栄養法【外部講師】	講義
12	在宅人工呼吸療法：気管切開下陽圧換気【外部講師】	講義
13	褥瘡管理【外部講師】	講義
14	ストーマ【外部講師】	講義
＜在宅療養者の状態別看護：第 15～21 回＞		
15	統合失調症の療養者に対する事例展開	講義
16 17 18	難病（ALS）の療養者に対する事例展開	講義・演習
19	がん終末期にある療養者の看護①	講義
20 21	がん終末期にある療養者の看護②【外部講師】	講義
22	まとめ	講義
23	試験	

【5】 評価方法

筆記試験（80 点）、レポート・グループワーク（20 点）

【6】 教科書

河原　加代子：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論[1]　第7版　医学書院　2026（電子版）

河原　加代子：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論[2]　第7版　医学書院　2026

（電子版）

【7】 参考書

押川眞黄子監：写真でわかる訪問看護　改訂２版　インターメディカ　　その他は随時授業で提示する。

【8】 受講生へのメッセージ

訪問看護では看護師一人が療養者宅へ訪問し、看護援助を提供します。そのため、対象の生活環境を含めた様々な視点から適切な判断をしなければなりません。また、看護師が訪問していない時間帯は家族が援助を提供することになります。したがって家族への指導の視点も必須です。